

「誠意ある対応」からは程遠い九電の対応と回答

2月6日に行われた九電交渉に参加しました。

今回の九電交渉は、昨年8月22日、九州電力本店・広報部に提出されていた「九州電力の原発再稼働を中止する事を求める公開質問状」への回答として行われました。

公開質問状は、「原発いらない！九州実行委員会」「さよなら原発！福岡」「福岡県総がかり実行委員会」3団体が連名で提出したもので、九州各県に在籍する5グループがそれぞれ1項目ずつ担当・作成し、全5項目からなっています。

(参考資料) 公開質問状 http://npg.boj.jp/topics/201708open_letter.pdf

公開質問状を提出した際、九電には、「文章で回答いただきたい」「詳細な質問項目が大量にあるので、直ちに全部の回答をいただけないかと考えているが、9月15日までは検討いただきたい」などを伝えていたそうです。しかし、9月末に催促しても回答なし。一時12月後半に回答するといった返事があったにも関わらずさらに延期となり、公開質問状の提出から5ヶ月半後の2月6日に、やっと回答がされることになったそうです。

通常会社間の取引・交渉ではありえないような遅延ぶりです。九州を代表する一流企業と自他ともに認める九電が、自らの名前を汚すような対応しか取れない様子には、回答前から、少しあきれてしまいました。

2月6日の回答は、朝10時から12時まで、約2時間にわたって行われました。

当日は、九州北部で本格的な降雪があった日です。福岡市内も雪で真っ白。長崎・大分など遠方から参加された方たちも、遅延する電車の到着時間を心配しながらの参加となりましたが、総勢20人が参加。事前の打合せを、九電本店ロビーで行って、地下2階の会議室へ移動。九電交渉のはじまりです。

九電からは3人の課長と司会役の計4人が出席。

参加者を代表して青柳さんが、文書回答がない点と回答が遅いことに抗議しました。

その後、1項目毎に九電が回答、意見交換を行うといった形で進みました。

項目は次の5項目です。

- ・地震・地震動について
- ・過酷事故対策について
- ・避難計画について
- ・3E（エネルギーの安定供給、経済性、環境保全性）について
- ・使用済み核燃料、放射性廃棄物の処理管理について

項目毎の質問は多岐にわたり、1項目15分を予定していましたが、九電側の回答読み上げだけで多くの時間を要し、項目毎の質問担当者が意見・質問する時間も満足にないといった進み方でした。

さらに、質問によっては「コメントする立場にない」「公表を差し控える」など、果たして、5ヶ月半も待たしたあげくの回答と言えるのかというような言葉も散見されました。聞いていて細かい数字を羅列することも多く、なぜ、文書回答しないのだろう、これでは

意見交換も何もあったものではない・・・と苛立ちを感じる場面も多々ありました。そんななかで、この言葉は記憶しておかなければ、皆さんに知っておいてほしいと思うものがいくつかありましたので、紹介させていただきます。

- ・水蒸気爆発などの過酷事故について、過酷事故の起こる「確率は少ない」「考えにくい」「きわめて低い」と繰り返しましたが、絶対にはないとは言いませんでした。
- ・その一方で「まず、決して事故を起こさないようにします」とも明言しました。
- ・また、事故が起こった場合、「その責任はすべて九電にある」「避難に関わる根本的責任は九電にある」かどうかを迫ると、責任についても認めました。

また、上記 3E について質問した担当者は、九電が公開している資料などから計算し、「原発ゼロでも供給余力はある」ではないか、「3.11 事故後の九電の原発関連費用・負債は 5 兆円超に想定」されると、九電の経営戦略の見直しを図るように社内で議論してはどうかなど、詳細な数字を示した文書を渡しながら迫りましたが、九電側の出席者はほぼ無反応でした。

「調べていない」「回答できない」と積み残した質問項目も多々あることから、継続して回答を求めることになりましたが、全体として、消化不良の交渉となりました。

ただ、九電の不誠実さをさらに感じたのは、当日の夜でした。ニュースで、2月16日、玄海原発3号機に燃料を装てんするとの報道が流れたのです。私たちが回答を求めているのは、安全な稼働などできないはずだ、稼働などしてほしくないといった立場からです。それが当然わかっていながら、回答と同日に再稼働を進める発表をするとは・・・啞然とするばかりです。

(文責 片山純子) 2018年2月12日公開